

山梨県で学校の先生になろう！（先輩教員の声）



山梨県立わかば支援学校

教諭 青沼 裕弥

令和元年度採用

山梨県出身

◆特別支援学校の教員を志した理由

小学校からサッカーをしており、その繋がりで高校生の頃にパラスポーツのブラインドサッカーの活動に関わるようになりました。練習や試合で、視覚障害の方の支援する場面も多かったのですが、それと同じくらい驚かされることもあり、多くの学びがありました。障害のある方と関わる中で、「もっと知りたい」、「誰かの力になりたい」と感じたことが、特別支援学校の教員を志すようになったきっかけです。

また、身近に特別支援学校で働く方が多くいたことも、大きな理由の一つです。

◆教員の「やりがい」や「魅力」等

子どもたちの小さな成長を、間近で見られることです。子どもたちの課題を克服するために、どんな指導や支援が必要なのかを、多くの先生と常に意見交換をしています。子どもたちの難しかったり苦手だったりすることが、少しずつできるようになる姿を見て、みんなで一緒に喜びを共有できる時に、やりがいを感じます。

◆先生になって「楽しかったこと」や「感動したこと」等

学校間交流で近くの小学校に行き、小学校の友達と一緒に、堂々とソーラン節を踊っている子どもたちの姿を見て感動しました。当日まで毎日、踊りの練習をしていて、当日は小学校の友達に負けじと、自信満々の表情で踊っていました。子どもたちに「できないことなんてない！」というメッセージをもらった気がしています。

◆学校の先生として心がけていること

子どもたちとの信頼関係です。たくさん遊び、たくさん話をして、信頼関係を築いた中で、その子にあった方法やペースで指導することを大切にしています。

自分の授業では、自分自身も楽しいと思える授業をつくることを心がけています。子どもたちの実態に合わせた授業を考えますが、子どもたちのモチベーションが上がるような工夫を考えて、反応を予想してワクワクしながら授業の準備をしています。



◆初任者の頃との違い（成長したこと）

子どもたちを見る力が、少しずつついてきたと思います。初任者の頃は、担当する子どもたちを見ることに一生懸命でした。経験を重ねる中で、見通しをもって指導することができるようになってきたことで、少しずつ子どもたちを見る視野が広がってきたと感じています。

◆家庭と仕事との両立について

退勤後、家族とゆっくり過ごす時間は限られていますが、帰宅して一緒に子どもとお風呂に入ることが、自分の日課になっており、それを楽しみに帰宅しています。休日は、家族で買い物をしたり、公園に行ったりしてゆったりと過ごし、仕事とプライベートのメリハリをつけるようにしています。



◆退勤後や休日の過ごし方（私のリフレッシュ法）

退勤後は、家族や子どもと過ごす時間を大切にしています。また、休日はサッカー観戦や、好きなアーティストのライブ鑑賞など、自分の趣味の時間も大切にしています。そういったことが、仕事にも還元することができるのではないかと感じています。

◆青沼裕弥先生の1日

出勤	8時頃に出勤し、予定の確認や、学年の先生方との打ち合わせ、授業の確認をします。
朝の会	健康観察や1日の予定の確認、給食の献立発表をします。子どもたちができることを生かして、役割を設定できるように心がけています。
授業	子どもたちの実態のあった授業をつくっていきます。子どもたちが、楽しく授業に参加できるような工夫を取り入れるようにしています。
給食 昼休み	摂食に課題のある子どもたちもいるので、安全に留意しながら、食べるようにしています。昼休みは、子どもたちと全力で遊んでいます。
授業	自分が前で授業を行うだけでなく、サブティーチャーとして、子どもたちの支援をすることもあります。子どもたちが、授業に集中し、内容を理解できるように、必要な支援を授業中にしています。
帰りの会	1日の出来事を振り返る時間を大切にし、楽しかったことや頑張ったことを発表できる時間を確保しています。
放課後	学年の先生方と授業の反省や次回に向けた打ち合わせ、子どもたちの情報共有をします。打ち合わせ後は、授業準備や分掌業務を計画的に行います。
退勤	

◆山梨県の学校の先生を目指す方へのメッセージ

子どもたち一人一人とじっくりとかかわり、間近で成長を見守ることができる、とてもやりがいのある仕事だと思っています。指導や支援の難しさに悩むこともありますが、それ以上に子どもたちから元気をもらうことが多く、この仕事の魅力だと思います。周りの先生方と子どもたちのことを一緒に考え、成長を喜び合える時間がとても楽しいです。皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。